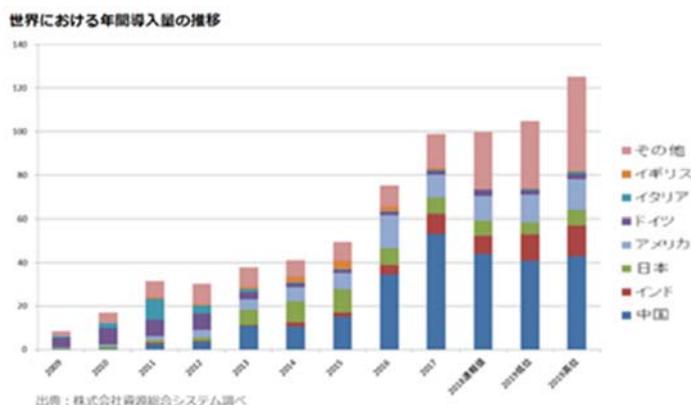
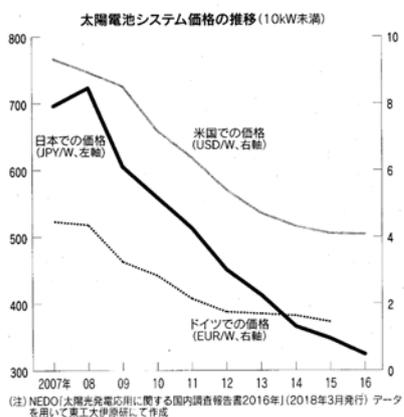


太陽電池システムの価格推移とその導入量推移

太陽電池の導入コストが年々下がってきている。これは太陽光発電設備の累積導入数が増加したことによる。いわゆる原価低減の法則によるものです。

上図の2つは、太陽電池システムの価格推移と年間導入量の推移です。累積導入数の増加に伴ってシステムの価格は低減してきています。また、この価格低減に呼応して太陽光電力の買取価格も抑えられてきています。



10kWh 未満の場合の売電は、1 kWh 当たりの売価は右図に示す通りで、買取期間は 10 年間です。上の図で、2016 年の W (ワット) 当たりのシステム価格が 300 円とすると、この 300 円を 10 年で回収するには、単純計算でシステム価格 / 10 年間の売電収入 = 14.3% となります。ただし、この値は 1 日を通して 100% の効率で発電できた場合の計算ですので、夜間 (発電できない) や雨や曇りの日の効率を考慮すべきものです。



太陽光発電の普及に伴って、地上には多くの太陽光パネルが見られるようになりました。最近では、さらに、池の上にもパネルが敷き詰められた光景も増えてきました。ため池の数が多き東播磨地方ですが、GoogleMap からその普及の様子が見えてきます。

